

## 平成 29 年度決算における利益処分額（当期総利益）について

### 1 平成 29 年度当期総利益の額

1,053,660,811 円

### 2 平成 29 年度の当期総利益について

大学部門ではデータサイエンス学部の開設準備、留学生の受入拡充、戦略的研究への投資を推進しながら、外部資金の獲得や効率的な執行を行いました。また、附属 2 病院においては、収支改善に向けたプロジェクトを設置し、収益向上につながる様々な取組を行いました。

この当期総利益は、教職員それぞれの取組が実を結んだ結果生み出されたもので、法人の経営努力から生じたものと考えており、本学が速やかに対応する必要がある教育、研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善の取組に活用したいと考えております。

### 3 29 年度の具体的取組

#### (1) 主な取組内容と影響額

- ・附属 2 病院の経営改善による利益（約 4 億円）
- ・法人職員の退職一時金制度変更に伴う臨時利益（約 3.2 億円）
- ・授業料等の学費収入の増（約 1.3 億円）
- ・受託研究費等の外部資金獲得拡大による間接経費等収入の増（約 0.8 億円）

#### (2) 附属 2 病院の経営改善について

##### ア 主な取組

- ・更新した CT・MRI の稼働
- ・新たに整備した手術室の有効活用
- ・手術枠の見直しによる手術室の有効活用
- ・DPC 入院期間 II 日以内での退院の促進
- ・重症系病床の効率的な運用
- ・病床配分の見直し
- ・救急患者の受入強化
- ・加算・施設基準の積極的な取得

##### イ 主な収益・費用の増減（以下、金額は対前年度比での改善額）

上記取組により、収益・費用ともに増加したものの、費用の伸びを収益の伸びが上回り、大幅な収支改善となりました。

○上記の取組による収益向上や諸経費の削減

- ・新入院患者数、手術件数、特定入院料の増等による入院収益の増（約 19 億円）
- ・外来化学療法件数、画像診断件数の増等による外来収益の増（約 8.9 億円）
- ・病院情報システムの償却終了等による減価償却費の減（約 2.5 億円）

○一方で、病院の稼働の増加に伴う経費増や人件費の増

- ・抗がん剤使用量の増等による医薬品費の増（▲約 5.6 億円）
- ・手術件数の増による診療材料費の増（▲約 5 億円）
- ・定期昇給や人員増に伴う人件費の増（▲約 6.6 億円）

⇒ 結果として、前年度からの改善額：約 14 億円

（臨時要因を除く当期総利益は、28：▲10 億円 → 29：4 億円）

<参考>

項目	附属病院		センター病院	
	指標	28 決算比	指標	28 決算比
入院単価	75,235 円	+4,136 円	77,979 円	+3,255 円
新入院患者数	15,061 人	+1,086 人	19,273 人	+982 人
病床利用率	85.7%	▲0.1%	90.0%	+1.6%
平均在院日数	13.6 日	▲1.1 日	12.4 日	▲0.4 日
外来単価	16,650 円	+350 円	19,222 円	+868 円
手術件数	6,239 件	+312 件	8,568 件	+691 件